

平成27年度第1学期

科学技術政策特論

第10回講義 北極戦略と科学技術

文部科学省研究開発局海洋地球課長
清浦 隆 氏

清浦先生からのメッセージ

北極は、過去35年間で夏季の海氷面積が3分の2程度に減少するなど、気候変動の影響が最も顕著に現れている地域です。北極における環境変化は北極域にとどまる問題ではなく、地球全体の気象や生態系に影響を与えることが懸念されています。一方、海氷の減少に伴い、北極海航路や新たな資源開発の可能性への期待も高まっております。このようにリスクとチャンスの両面で国際的な関心が高まる中、国際社会は、そして我が国はこの北極の問題に対してどのように対応すべきでしょうか。北極の問題は、外交、安全保障、資源・エネルギー、物流、環境、科学技術等様々な分野に関わる問題であり、自然科学だけでなく人文・社会科学分野も含め幅広い知見を結集して取り組む必要があります。みなさんは、北海道大学が本年4月に北極域研究センターを新設し、北極に関する取組の強化を図っていることをご存じでしょうか。是非、一緒に北極の問題を考えてみませんか。

日時：

2015年6月12日

金曜日

5 講目 16:30-18:00

場所：

工学研究院

オープンホール

[B-201]

清浦 隆 先生

1993年、九州大学大学院工学専攻科修了、科学技術庁（現、文部科学省）入省。原子力研究開発、職業教育、競争的資金、国際研究交流、地球環境研究などの幅広い分野をご担当。また、この間、在ウィーン国際機関日本政府代表部では対IAEA外交をご担当されるなどの行政経験を積み、2014年1月より現職。

担当：工学系教育研究センター 教授 渡邊康正

内線：6908

Mail：ceed-int@eng.hokudai.ac.jp